

平成30年10月11日

平成30年度 認知症施策に関する東海北陸厚生局管内各県ブロック会議

関市認知症初期集中支援チームの活動状況

関市高齢福祉課 保健師 千葉

関市認知症初期集中支援チーム 社会福祉士 河合

関市の概況

(人口はH30.4.1現在)

○合併 平成17年2月 関市・武儀郡5町村

○総人口 89,036人

○高齢者人口（高齢化率） 25,532人（28.7%）

○日常生活自立度Ⅱ以上 2,494人

○地域包括支援センター（法人委託） 市内6か所

○認知症地域支援推進員 6名

（地域包括支援センター職員6名、高齢福祉課職員1名）

関市認知症初期集中支援チームの概要①

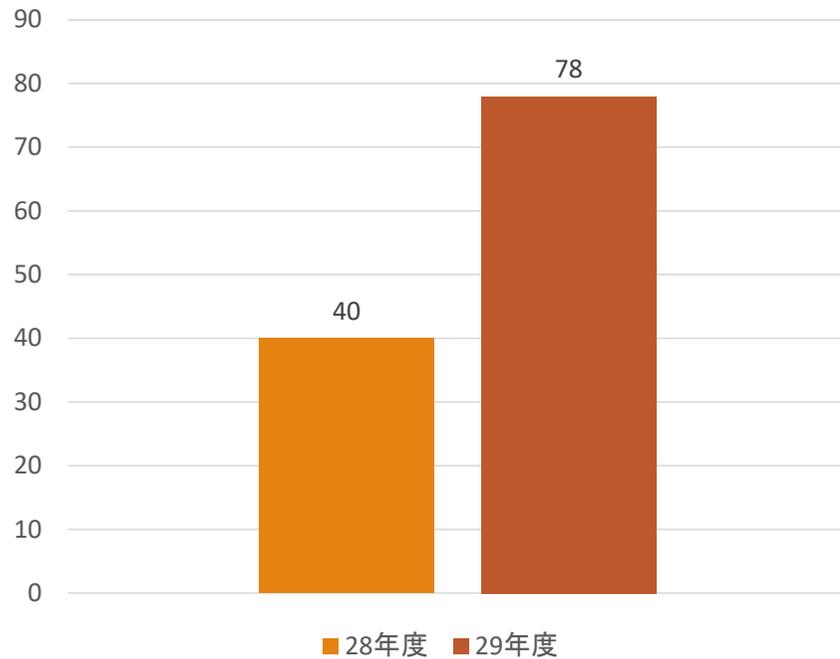
設置日	平成28年3月1日
受託法人	社会福祉法人桜友会
構成人員	医師 チーム員 認知症専門医 保健師1名、社会福祉士1名（計2名）
チーム員会議開催状況	毎月1回（第3木曜日）

関市認知症初期集中支援チームの概要②

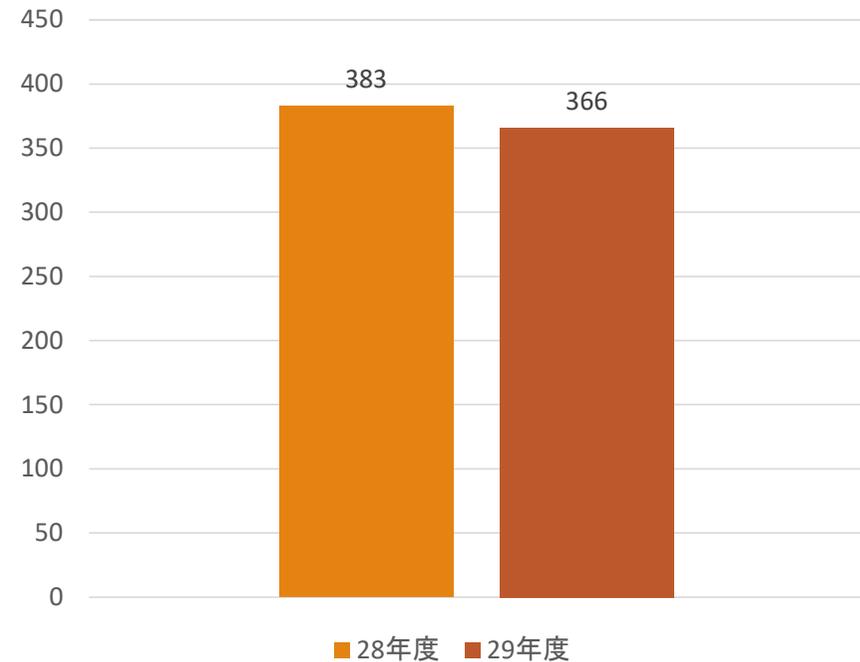
バックアップ体制	主管課：関市高齢福祉課 ・指導監督 ・市役所での認知症関連相談の受付時にチームを紹介
主な関係機関との連携体制	①地域包括支援センター（市内6ヶ所） ・包括にて受けた認知症相談のうち、初期集中支援が必要と包括が判断したケースをチームに依頼 ・チームが本人・家族・関係機関より直接相談を受けたケースはチームより包括に報告した上で、チームが関与することを確認 ・認知症地域支援推進員と連携して支援・周知活動等を展開 ②認知症疾患医療センター（県内8ヶ所） ・センターの相談員と連携して受診前の情報提供、受診調整、入院中の状況確認等を行う ・センター主催の疾患連携協議会連絡会議にチーム員が出席

平成28・29年度 活動実績 ①

支援対象者数（実人数）

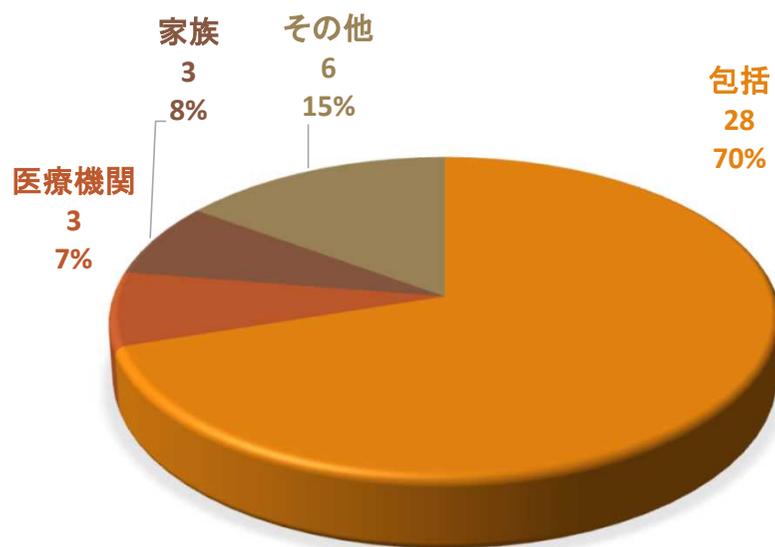


本人宅への訪問回数

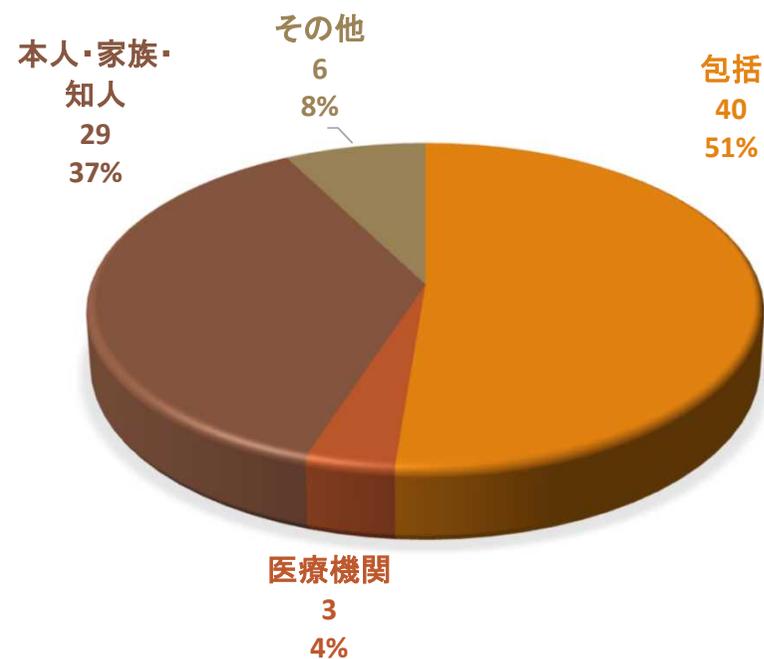


平成28・29年度 活動実績 ②

28年度 把握ルート

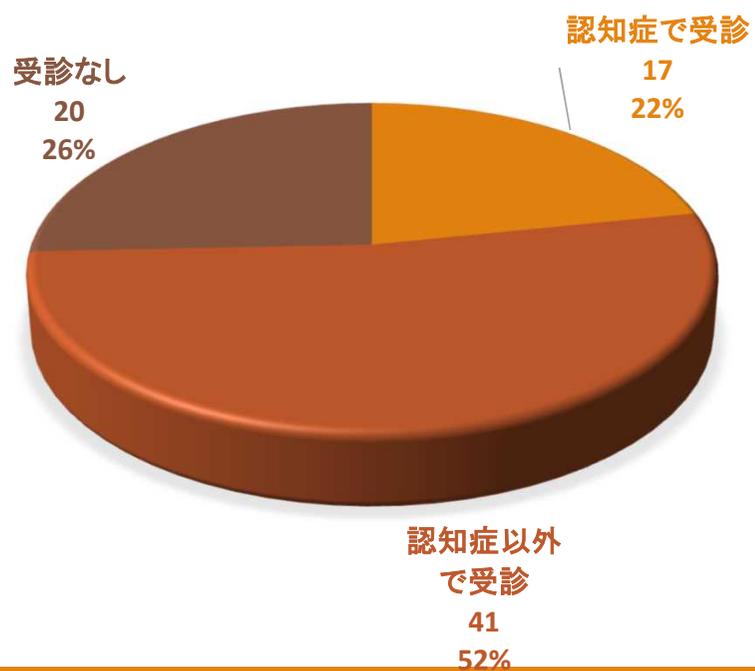


29年度 把握ルート

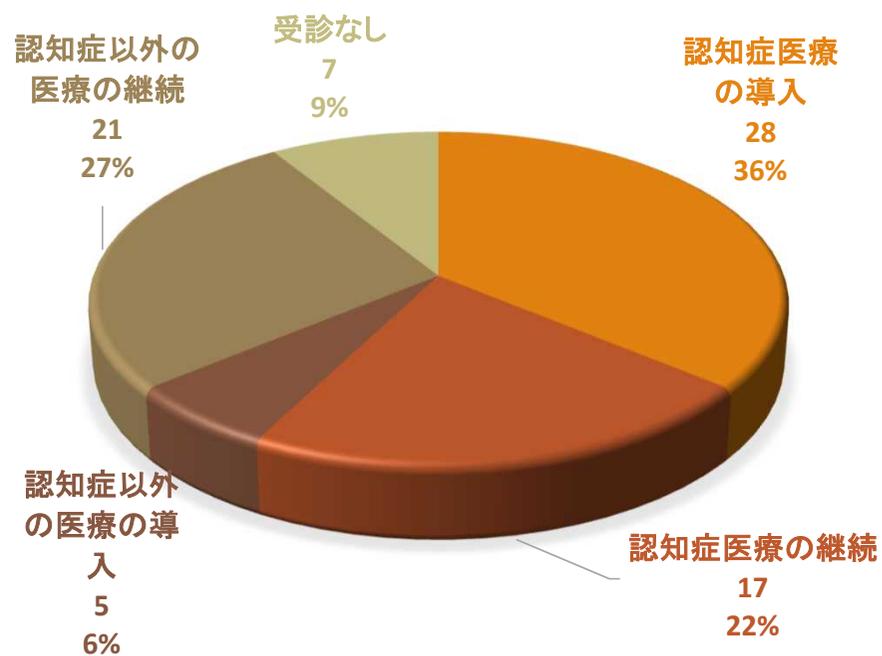


平成29年度 活動実績 【医療】

介入時の医療の利用状況

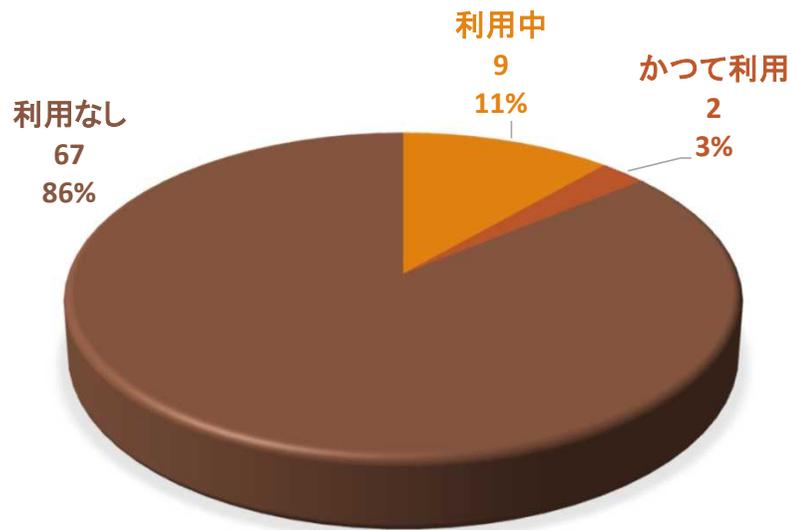


介入後の医療の利用状況

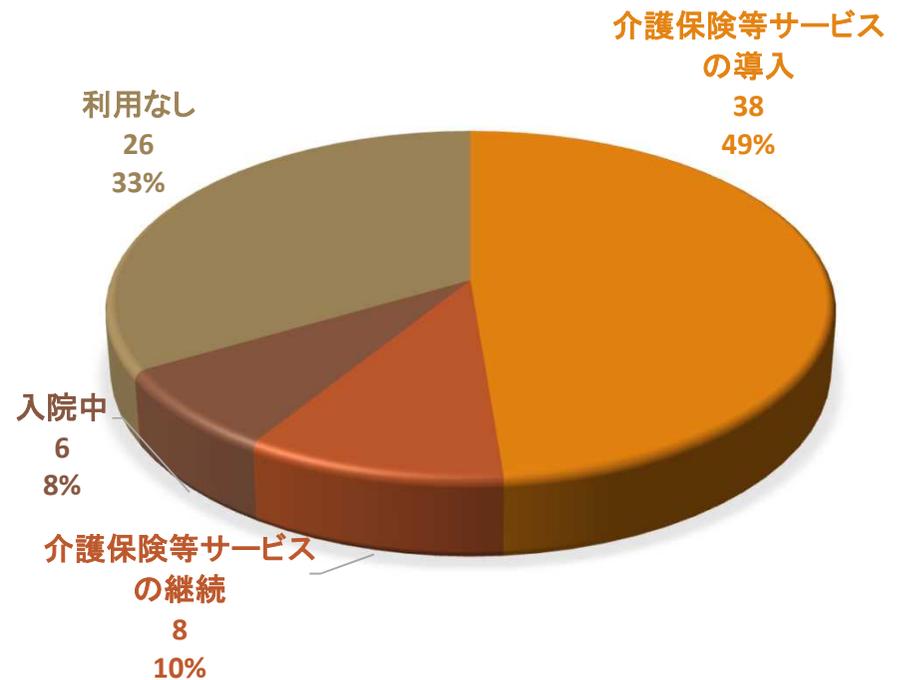


平成29年度 活動実績 【介護サービス】

介入時のサービスの利用状況



介入後の介護サービスの利用状況



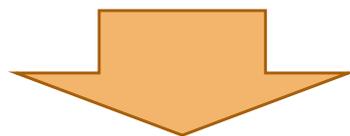
実績向上に向けて取り組んだこと ～ 周知活動 ～

関係機関への周知	医師会・歯科医師会・薬剤師会・民生委員・介護支援専門員等の会議の場で説明を行う。
地域ケア会議への出席	市内で開催される地域ケア会議（15地区）に出席して説明を行う。現在は同会議メンバーとして定例の会議に出席。
認知症カフェへの参加	市内で開催される認知症カフェに参加して説明を行うと共に相談に応じる。現在は認知症等に関するミニ講座を担当。
地域委員会等での周知	市内で開催される地域委員会や認知症サポーター養成講座に出向いて説明を行う。
認知症地域支援推進員との周知啓発活動	包括の推進員と共催で認知症講座を開催したり、イベントに参加して周知啓発活動を行う。

実績向上に向けて取り組んだこと ～ 支援内容のPR ～

検討委員会（高齢者ネットワーク会議）にてチームの実績報告・事例紹介を行う。

医師会・歯科医師会・薬剤師会等関係機関の研修に出向き、受講者に事例紹介を行う。



チームの支援を分かりやすくイメージいただき、チームの活用方法の理解につながった。

チームが専任であることのメリット

◆必要に応じて受診同行による支援が可能

本人・家族のみの受診で伝わりにくかった客観的な情報が、チーム員が受診に同行することで支援機関として主治医・相談員へ伝えることが可能となり、より適切な認知症医療につながる。主治医からもチームが関与して良かったと評価を受けたことがある。受診は待ち時間も含めて時間を要するものであるため、包括・ケアマネ等と連携するなかで、チーム員がこの役割を担い、関係機関に医療関連情報を伝えていくことは有効であると考ええる。

◆地域ケア会議・認知症カフェを最大限活用した支援が可能

地域ケア会議に出席することで、より早く支援が必要なケースにつながる事が可能となる。認知症カフェに参加することで、周知啓発を行うと共に、必要があればその場で相談に応じることができる。支援に関わる本人・家族をカフェに誘って、介護する家族同士思いを語ったり情報交換をされることもある。つながりを支援したり、認知症が他人事ではないことを理解いただきながら地域での見守りの輪を広げるために、カフェの活用は有効であると考ええる。

活動を通じてチーム員として感じるところ

ケースの積み重ねのみならず、チーム医師の助言や、チーム員会議の有効活用、また、各種研修等の受講を通じてスキルアップを図っていきたい。

これまで積み重ねてきたケースを分析しながら、効率的かつ効果的なチームの支援スタイルを追求していきたい。

課題と今後の展開 ～行政から～

<課題>

●より質の高い活動へ

専任だからこそできる質の高い活動を目指さねばならない。
費用対効果が求められる。

●他機関との連携

地域包括支援センターとの役割分担、連携の難しさ

課題への取り組み

①関係機関との検討と振り返り

→個別支援のスキルアップ、地域包括支援センターとの役割分担

②相談業務以外の活動強化

→チームの活動の周知、認知症地域支援推進員との連携

(普及啓発活動)

今後の展開

活動の効果を目に見えるものにし、評価をだしていく

- 「専任だからできること」を強みに…個別支援のスキルアップ、
相談業務以外の活動強化
- チーム員との連携（丁寧な情報共有、風通しのよい関係）

行政の役割

行政とチームが同じ方向を向いていけるように

ご清聴ありがとうございました。



関*はもみん

関市認知症初期集中支援チーム オリジナルロゴマーク